

TGSW2018 「サンタクルス病院とのセッション」

国際医療センター

9月20日（木）、TGSW2018の一環である「サンタクルス病院とのセッション」のため、ブラジル、サンタクルス病院から5名（石川レナート理事長、二宮正人副理事長、佐藤マリオ副理事長、西国幸四郎医師、Renato Takayuki Hasegawa 医師）、サンパウロ大学から1名（Manoel Jacobsen Teixeira 教授）を本院にお迎えした。

今回は、9月21日（金）に執り行われる筑波大学附属病院とサンタクルス病院との調印式を前に、今後の更なる友好と協力を目的とした交流が行われた。

午前中は、ベントン副学長、原院長、平松副院長にも参加いただき、陽子線医学利用研究センターカンファレンス室においてランチョンセッションが行われた。セッションではHITACHI 製作所の藤本林太郎氏による粒子線治療装置の紹介があった。今後、ブラジルに陽子線治療センターを開設したいという希望があることから、熱心に説明に聞き入り、質疑応答も行われた。その後、榮武二センター長に案内いただき、陽子加速装置ライナック、シンクロトン、照射装置回転ガントリー等の見学を行った。



陽子線医学利用研究センターにて

午後は、けやきプラザにおいて原院長を座長に迎え、櫻井教授、松村教授、Manoel Jacobsen Teixeira 教授、奈良坂講師、Renato Takayuki Hassegawa 医師、富士フィルム島田咲氏の発表が行われた。その後、サンタクルス病院の皆様と原院長、平松副院長、大根田教授、秋山部長との懇談が行われ、今後の協力の在り方について積極的な意見交換が行われた。

次年度からの活発な相互交流が期待される良い機会となった。



セッション後の懇談の様子